

おおた社会福祉士会会報

第77号

2014年11月6日発行

発行：おおた社会福祉士会事務局

責任者：田端千英

連絡先：〒146-0082 東京都大田区池上7-13-14

電話・FAX 03-6410-6051

E-MAIL otachikukai@gmail.com



(メール配信への切り替えをご希望される方は、「お名前」と「メール配信希望」の旨をこちらまでお願いします。)

9月定例会報告

～格差に立ち向かい、子供の未来を明るくする、
地域のネットワークづくり～のご報告

権利擁護チーム 高山 円

今回の権利擁護チームは「生活困窮者・貧困」をテーマに、早急に支援が望まれる児童・若者を取り巻く貧困の課題に迫り、豊島区で有機的なネットワークを立ち上げ子供達の支援をされている、NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク理事長・栗林知絵子さんにご登壇頂き、お話を伺いました。

現在、日本の子供の6人に1人が貧困ライン（おおよそ4人世帯で年収250万円）の家計で育ち、学べない、食べられない、遊べない等、当たり前が得られない子供が増え続けています。栗林さんのNPOでは現在、①遊びサポート・池袋プレーパーク ②学びサポート・無料学習支援 ③暮らしサポート・要町あさやけ子ども食堂、の3本柱で活動を展開していますが、今の活動に至るきっかけとなったのは、中学校3年生の男の子との出会いでした。自身も同年代の子を持つ母である栗林さんは、貧困という家庭の環境から勉強の機会が与えられず、高校進学を無理だと諦めていた彼の存在を知り、そんな子が地域にいることが驚きだったと振り返ります。彼の不安と訴えるような思いを察知した栗林さんは、周囲から非難を浴びることもありましたが、自宅で勉強を教え、いつもコンビニのお弁当だった彼に手作りの食事を提供し、高校受験料免除の為の助成金の保証人にもなりました。そんな栗林さんの熱心な姿に、学生ボランティア、地域の有志の仲間等が賛同して集まります。無事に都立高校に合格を果たした彼を通し、子供の貧困という見えにくい問題を、地域の人に知ってもらう機会となりました。



地域のおせっかいおばさんを自認し、とにかく人や場を巻き込んで、1人の子供の課題を地域の課題として顕在化し、ネットワークで解決を考えるという栗林さん。その「巻き込み力」の原動力は、シンプルに楽しむこと。そして楽しみを周りに伝播していくことにあると言います。楽しいさまざまなカタチの居場所を通じて、信頼できる大人や若者につながった時、一人の子供の人生が変わる可能性がある、と。

「目の前に困っている人がいたら躊躇せず手をさしのべる、それが『おせっかい』と言われてもいいじゃないか。」そんな根源的な本能に立ち返り、あたたかで清々しい『3丁目の夕日』のような余韻をもたらした、栗林知絵子さんのお話でした。



第二部は、おおた社会福祉士会のネットワーク会員、伊佐治剛区議会議員から北海道福祉関連の視察報告を頂きました。釧路の生活保護自立支援プログラムや石狩市の手話に関する基本条例・障害者の就労支援及び自閉症者自立支援センターの取り組みなど、伊佐治区議の多角的な視点による、これからのおおたの福祉を考える上で大きなヒントともなるような、とても興味深い報告でした。ですが、今回は限られた時間だったこともあり、トピックのみお話でしたので、今

後改めて発表の場を設ける予定となっています。お楽しみに！

だんだん子ども食堂 近藤博子

小学校の副校長先生から、お母さんが病気を抱えていて、満足な食事がとれない子どもがいることを打ち明けられたのが始めるきっかけです。

ひとりで夕食を食べなくちゃいけない時、子どもだけでも食べに行ける場所。それが、だんだん子ども食堂です。もちろん、大人も大丈夫です。みんなで温かいご飯と具たくさんのみそ汁を「おいしいね！」って食べようよ。



毎月第2、第4木曜日 pm6時～8時 オープン

子ども ￥300 大人 ￥500

予約必要なし

大田区東矢口1-17-9 気まぐれ八百屋だんだん

090-8941-3458 (近藤)

9/11島根のミニトマトをたっぷりのトマトカレー (ブログから)

リレーエッセイ 柴田 愛三



私は20代の頃は百貨店で販売の仕事をし、30歳で特別養護老人ホームに入職しました。介護職員として5年、生活相談員として5年、昨年からは法人内の異動で地域包括支援センターに勤務しております。その他の活動としては、昨年1年間、仕事の合間を縫ってスピリチュアルケア(心のケア)の勉強をし、都内の病院ホスピス病棟に実習に行きました。今年は、成年後見人の受任も1件始めたところです。

社会福祉士の資格については、介護職員をしていた頃に通信で学び取得しました。

介護の仕事は、3Kと言われていますが、私自身は利用者と共に喜びや悲しみを共有できて、その方の人生の最期まで寄り添い続けることができるという、喜びややりがいがあり、悩み苦しみながらも仕事を辞めたいと思ったことは一度もありませんでした。

A. H. マズローの人間欲求を段階化した有名な理論(ピラミッドの一番下の「食べる、寝る」などの基本的欲求が満たされて、はじめて高次の欲求が出てきて、最後に一番上の自己実現欲求という段階に至る、というもの)について三好春樹さんが「関係障害論(1997)」で次のように反論を述べていました。

「今日どう食べるか、どう出すかということの中に、小さな自己実現があるはず。いま、ここに自己実現があるのです。だから、これをやった後に何か意味が出てくるはずだ、というのではなくて、どう食べてもらうか、どう排泄してもらうのかということに、どう関わられるかということが大切なのです。」ここに私の介護職・対人援助職としての原点があります。これは高齢者の介護の現場にのみならず、ホスピスなど残された時間の少ない患者さんと対峙する時には更に強く意識せざるを得ませんでした。「いま、ここで、目の前の人、目の前の課題とどう関わっていくか」にこだわっていきたいと思っています。

さて、昨今2025年には多くの高齢者が「看取り難民」になると言われています。今以上に、独り暮らしや夫婦2人世帯が増加している状況の中、病院の病床もいっばいで高齢者は望む望まないにかかわらず、退院を余儀なくされるためです。高齢になっても誰もが安心して、最期まで住みなれた地域で暮らせるようにするためには、どうしたら良いのでしょうか？

第一には、地域包括ケアシステムの構築(自助・互助の活性化)が早急に必要であると言われていています。第二に、すっかり医療に依存的になってしまった私達の思考を根本的に変える必要があると感じています。

現代日本人の傾向として、病院に行っても治らない病気もあるし、加齢は防ぎようがないし、死は誰にでも平等にやってくる、ということ意識していない人が多い。「先生にお任せします」と、平気で自分や家族の治療について、無批判・依存的な態度で医師に丸投げしてしまっているように思えます。

特に日本人が「死」について考える場合、昨今は終活ブームで、自分が死んだ後の財産分与やお葬式のことなどを遺言として残す人は増えてきました。しかし、自分がどう死を迎え、何を望むか？延命(そもそも何を延命として捉えているか？も、人それぞれで曖昧)についてなど、「リビングウィル(生前の意思表明書)」など残している人は少ないようです。「リビングウィル」もなく、家族と「死」について語り合う機



会を持たずに、その時を迎えた人は、自分の意思に反する治療や最期の時を迎えることになるかもしれません。家族や周囲の意向に沿っての選択にならざるを得ません。

「生きるとは、つまり生きることの問いに正しく答える義務である」V. フランクルは人間が実現できる価値を3つに分類し、そのうち人間が最後まで実現しうる価値として「態度価値」を重視しています。



「どう生きてどう死んでいくか」…医療に対して受動的・依存的な患者意識から、自立・自律した当事者としての意識を持っていただけるよう、情報発信、情報提供し続けることによって、ご本人やご家族が自らの力で選択し、行動が起こせるようにすることが、私達の責務であると強く感じています。

忘年会のお知らせ

区民公開講座を開催するため、11月定例会はお休みです。

また、12月定例会もお休みし、忘年会を開催します。

日時：12月17日（水）19：00～

店名：ラノズ蒲田店（貸し切りです。直接お店に集合してください）大田区蒲田5-33-9高谷ビル1F 電話03-5713-3515

参加費（予定）：3,500円（2時間飲み放題コース）

HP：<http://tabelog.com/tokyo/A1315/A131503/13047645/>

申し込み：今回はメールでの事前申し込み制にします。12月10日までに幹事（吉田）へメールでお願い致します。E-mail yugo1979.1031@gmail.com

備考：コース料理を予約している都合上、当日キャンセルは実費費用を頂戴いたします。



区民公開講座＝成年後見制度って何ですか？＝

日 時：11月24日（月・休） 13:30～16:30（13:00 開場）

会 場：大田区役所本庁舎2階 大田区蒲田5-13-14

※詳細は、同封のチラシをご参照ください。

「第2回地区会交流会」のお知らせ

区民公開講座に併せて、第2回地区会交流会（東京社会福祉士会の地区代表者有志による企画）を開催します。区民公開講座の懇親会、実行委員の打ち上げも合同で行います。大田区、大田区社会福祉協議会の関係者も参加予定です。

大田区内の社会福祉士の活動、大田区・大田区社会福祉協議会の活動を東京社会福祉士会の理事・各地区の社会福祉士の方々にアピールする場であると同時に、区や社協の関係者に社会福祉士の活動をアピールする場にしたいと思います。

みなさまのご来場を心よりお待ちしております。

～。～。～。～。～。～。～。～。～。～。～。～。～。～。～。～。

日 時：11月24日（月・休） 17:30～19:30

会 場：鳥良 蒲田店（大田区蒲田5-20-5 蒲田駅東口 徒歩1分）TEL：03-3732-0521

ぐるなび：<http://r.gnavi.co.jp/g111323/>

【参加費】3,500円

【申込方法】所属地区会と氏名を明記のうえ、おた社会福祉士会事務局にファックスまたはメールにてお申込みください。参加申込の〆切りは11月20日（木）です。

FAX：03-6410-6051 E-mail：otachikukai@yahoo.co.jp

※地区会交流会からの参加も可能です。

※シンポジウム終了後（15:30）から第2回地区会交流会開始（17:30）までの間には、別スペースにて公開講座の感想やご意見、参加者間の情報交換などの内容で“プレ地区会交流会”も企画しております。

シンポジウム終了後にご案内いたします。

編集後記

秋は行事目白押し。お祭り、運動会、文化祭、バザー、音楽祭、作品展・・・。

24日にはおた社会福祉士会の区民公開講座と地区交流会があります。会場でお会いしましょう。ぜひ～。地区交流会と忘年会の出席メール、お忘れなく。（平）